

令和七年度入学試験問題（前期日程）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問
題

次の文章を読んで、各問に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(武田雅哉『新千年図像晩会』作品社、二〇〇一年、五〇～七三ページ、抜粋・一部改変)

【語注】

- (※₁) マニエリスム ここでは「これまでのルールや規範を超えた形での描写」といった意味で用いられている。
- (※₂) ペダントリック 教養や知識をひけらかすような。
- (※₃) カバラの解釈学 カバラはユダヤ教神秘主義のこと。人間やこの世界に与えられた「神の見えざる叡智」を解読しようとする。
- (※₄) 海棠 中国原産の、春に淡紅色の花を咲かせる花木。

問一

7ページの傍線「中国語を音としてあやつり、これらの同音異義語を導き出しうる人々、すなわち中国人によってのみ読まれうる図像なのであるから、これらはすでに一種の「文字」であるといえるだろう」について、

①

絵Ⅱ図像を「読む」とはどのようなことか、本文に即して三〇〇字以内で説明しなさい。

②

現代のパソコンやスマートフォンでのメールやSNSなどで使用される「絵文字」と、この本文で述べられていることを比較し、共通性と相違点を挙げ、あなたの考えを三〇〇字以内で述べなさい。

問二

9ページの傍線「漢字を生んだかの国では、その境界線は、実にあやしげにあいまいである。むしろ越境を楽しんでいると言わなければならない」について、この「越境」が起こりうるのは、「文字」「絵」をそれぞれどのように定義した場合であるか、本文で述べられていることとあなたの考えを合わせて、六〇〇字以内で説明しなさい。

令和七年度入学試験問題（前期日程）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、アドミSSION・ポリシーとして、琉球・沖縄、日本、中国大陆、台湾、朝鮮半島などのアジア文化圏における言語、文学、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を持ち、地域による文化の違いと類似性に目を向けつつ、主体的・積極的に研究できる人材を求めている。したがって、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探求心と、根拠ある主張を論理的に展開できる力が要求される。問題文は、中国文学研究者の武田雅哉氏『新千年図像晩会』の「文字ならぬ絵・絵ならぬ文字」で、伝統的漢字文化を含みながら変化してゆく現代中国の文化を、漢字（文字）論をベースに論じている。問題文の章は「文字ならぬ絵・絵ならぬ文字」という題名のとおり、「漢字を生んだ」中国での、文字と絵との「境界線は、実に楽しげにあまりない」であり「むしろ越境を楽しんでいる」とさえ見える文化の様相を画像・画像も多く用いて論じており、同じアジア漢字文化圏の日本においても、「四角四面の文字世界」に留まらない中国文化から、受験生は新しい知見を多く得ることになる。これを読解理解することを通して、受験生の、言語と文化、社会、人間同士のコミュニケーションを考えるうえでの感受性・共感能力・理解力についての論述をしてもらい、固定的な理解にとどまらない柔軟性をもった理解力および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。